

相談支援つうしん

<第72号>2021年5月28日
県立湘南養護学校 支援連携部
相談支援係 ~教師編~

今回は、不適切な言動を減らすために、求めているご褒美（好子）を取り去る手立てをご紹介します。

<不適切な行動を減らす手立て>

レベル1	分化強化手続き
レベル2	消去（強化しない）手続き
レベル3	求めている刺激の除去
レベル4	嫌悪刺激が行動に随伴する

- ①求めている刺激の除去とは？
- ②レスポンスコスト
- ③タイムアウト
- ④分化強化や消去を組み合わせる



①求めている刺激の除去とは？

言い換えると、好子を除去することで不適切な行動を減らす罰の手立てのことを言います。行動分析学の創始者であるB. F. スキナーは、今から40年以上前に『罰なき社会』というタイトルで日本で講演を行ったそうですが、現実社会はスキナー先生が追い求める理想とは異なり、罰を用いることによって不適切な行動を減らそうとする仕組みがいくつもあります。

②レスポンスコスト

その1つがこのレスポンスコストです。罰金制度がこれにあたります。最初にトークンをいくつか与えておき、不適切な行動の度に取り去っていき、全部なくなったらペナルティが発動します。シールを一定数貯めたらご褒美と交換できるトークンエコノミーとは逆のシステムです。例えば、授業前に生徒に10枚のシールを与えておき、おしゃべりをするごとにシールを1つずつ取り去り、全部なくなったら休み時間に遊べなくなるなどのペナルティが加えられることを説明し、実施します。ただし、目的はペナルティを与えて不適切な行動を減らすことではなく、自分で言動に気をつけ改善する意識の向上を図ることなので、授業を重ねるにしたがって、トークンを取り上げられる数が減ることを目指します。

③タイムアウト

もう1つの代表的な手立てはタイムアウトです。タイムアウトは、好子を一時的に遠ざけるという意味です。学校で行う場合は、アイスホッケーの2分間退場ルールがイメージしやすいかもしれません。サッカーのレッドカードも出場停止期間は長いですが同じ働きをします。昔のドラえもんでは、のび太君が「廊下に立ってなさい！」とよく叱られていましたが、これは非隔離型のタイムアウトと言えそうです（授業に戻される場面は見たことはありませんが）。

話を戻して、タイムアウトはさまざまな形があります。別室に隔離するだけがタイムアウトではありません。例えば、食事のマナーが悪いときに、食事（好子）を一時的に遠ざけることもタイムアウトです。それによって、マナーの悪い食べ方を減ら（弱化）します。

④分化強化や消去と組み合わせる

タイムアウトも事前のルール説明が重要です。タイムアウトが適用される行動は何か、子どもに理解で

きるように説明します。しかし、タイムアウトは、適切な行動を直接教えてくれるわけではないので、合わせて適切な行動を直接強化（教える）するとよいです。また、おしゃべりのような相手の応答で強化される行動の場合は、応じないことでおしゃべりを消去し学習への参加を褒めることを組み合わせます。

タイムアウトは、望ましい行動を分化強化する方法や消去が上手くいかなかったときにはじめて導入を検討します。不適切な行動＝タイムアウトとすぐに考えないことが重要です。また、1回のタイムアウト時間は1～5分でおおむね十分だそうです。



～校内の風景～

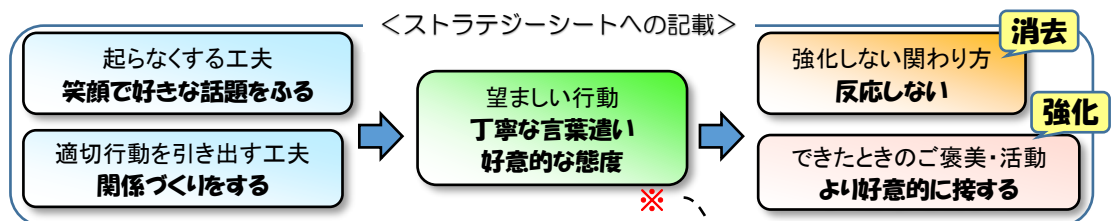
高等部の生徒の中には、ちょっと悪ぶって見せたり、自分を大きく見せようとしたりして尊大な態度をとってしまう生徒がいます。新しい学校生活への不安がそのような態度になってしまふこともあるようです。通常、そうした不適切な言動は叱責されたり注意されたりしますが、本校では次のような指導の工夫がなされています。事例は架空の生徒です。



※イラストや左のセリフはあくまでイメージです。本校の生徒とは全く異なります。

生徒 A さん：「おい！先公、何やってんだよ。」

こうした先生への呼びかけには反応しません。スルーしたり違う話題を投げかけたり、にこやかに A さんが先日頑張っていたことなどを伝えたりします。最初から頭ごなしに叱ったりタイムアウトなどの罰を伝えると、A さんはヒートアップしてしまいます。ある意味 A さんの思うつぼなので、応じないことで強化せず、消去しています。消去し始めの頃は、「なにやってんだよ」、って聞いてんだよ！無視すんじゃねえ！」といった消去バーストが起こります。これにも淡々と消去を継続します。しかし、消去だけでは効果が悪いので、適切な言葉遣いを引き出すために、A さんの好きな話題を投げかけ関係づくりを図ります。そして、A さんから穏やかな表情や言葉が出てきたら、さらに好意的に接するようにします。そうやって関係ができてきたのを見計らってから、今度は不適切な言動には徐々に直接注意をしたり改善を促したりします。数か月経つと生徒の気持ちが和らいでくるのをもう何度も経験しましたが、この見通しをもって指導の段階を踏んで取り組んでいくことが効果的なのだ実感しています。



おっと！タイムアウトやレスポンスコストといった罰の実践をご紹介するつもりが、適切な言動を分化強化することで不適切な言動を減らす実践の紹介になってしまいました。しかし、やはり罰ではない方法が最も推奨されますし、本校ではそれがごく自然に取り入れられているように感じます。生徒の言動の中には、確かに叱責して修正を求めざるをえないこともありますが、最初から頭ごなしに叱責するのではなく、段階を踏んでまずは生徒が聞く耳を持つ状態を作ります。とにかく時間をかけて根気よく取り組んでいます。こうした実践を目にしていると、関係を作りながら指導するという、この丁寧さが我々の教育的専門性のひとつであることを日々実感することができます。

望ましい行動
です、まず調で話す
笑顔で会話する

※ストラテジーシートの望ましい行動は、より具体的な表現の方が評価しやすく good!

＜参考文献＞

- B. F. スキナー 「罰なき社会」 行動分析学研究 5(2), 1991
- P. A. アルバート/A. C. トルートマン 「はじめての応用行動分析」第2版 二弊社, 2004
- 島宗理 「応用行動分析学-ヒューマンサービスを改善する行動科学-」 新曜社, 2019